

## 新入社員向け IT 人材育成研修 ご案内

株式会社浜名湖国際頭脳センターでは、社会人向け IT 基礎教育プログラムの一環として、IT 企業、IT 関連企業および製造業を対象とした「**新入社員向け IT 人材育成研修～課題解決型エンジニア養成コース～**」を企画しました。

このプログラムは国立大学法人静岡大学名誉教授・八巻直一氏を中心とした講師陣を揃え、株式会社 ITSC が実施するものです。

本研修は、IT スキルの習得はもちろんのこと、「**情報産業・情報技術の歩みと今後の流れ**」といった IT 分野の基礎知識を学ぶことが特長の 1 つです。これにより、「**自ら発想できる IT エンジニア**」の土台を形成します。また、当地域の産業基盤が製造業であることから、モノづくりの背景や生産管理にも触れていきます。

IT スキルの習得では、**C#言語**を使用し、設計からプログラム実装までを行う**体験型のプログラム**で学んでいただきます。

研修スタイルは「チーム型」で、**小チームを作りチームで課題解決**を行います。これにより、仕事を進める上で必要な**チームワーク**を培います。また、**チーム作業の成果を発表**する場と日々の**レポート作成**を通じて、**アウトプットする力**も養っていきます。

IT エンジニアに必要な知識・考え方とスキルの習得に最適なカリキュラムです。ぜひ、貴社の新入社員教育の一環としてご活用ください。

### 【全体スケジュール】

2020 年 4 月 7 日～6 月 2 日（うち 34 日間）[255 時間 00 分]

| No. | 研修コース内講座一覧  |      | No. | 研修コース内講座一覧 |      |
|-----|-------------|------|-----|------------|------|
| 1   | 情報システム基礎Ⅰ講座 | 9 日間 | 3   | データベース基礎講座 | 3 日間 |
| 2   | 情報システム基礎Ⅱ講座 | 8 日間 | 4   | プログラミング講座  | 6 日間 |
|     |             |      | 5   | 情報システム開発講座 | 8 日間 |

受講料計 612,000 円（税抜）

※上記研修コース内の講座を選択受講することも可能です。その場合の前提条件を以下に記します。

- ・情報システム基礎Ⅱ講座の受講は、情報システム基礎Ⅰ講座の受講知識レベル程度を有すること
- ・情報システム開発講座の受講は、プログラミング講座の受講知識レベル程度を有すること

＜ご利用の流れ＞



### 【お申込み方法】

添付の申込書に御記入の上、FAXにて 2020 年 2 月 14 日（金）までに申し込みください。受付後、こちらから確認のご連絡をいたします。

### 【お申込み先／お問い合わせ先】

株式会社 ITSC 担当 市川 摩利子 宛  
FAX. 053-401-8227 / TEL. 053-401-8226

### 【企画】

株式会社浜名湖国際頭脳センター／HIC  
〒432-8003 浜松市中区和地山 3-1-7  
浜松イノベーションキューブ 2F  
Tel. 053-416-4002

【後援】NPO法人浜松ソフト産業協会

### 【研修実施】

株式会社 ITSC（国立大学法人静岡大学発ベンチャー企業）  
〒432-8014 浜松市中区鹿谷町 34-7 ツルビル 2F  
Tel. 053-401-8226

## 情報システム基礎Ⅰ講座 ご案内

【実施】株式会社 ITSC

【目的】本講座は、社会人として働く上で必要な基本概要知識を学びます。

【構成】本講座は下表に示す1科目からなり、合計9日間（67.5時間）で実施します。

【期間】4月7日～4月17日（7.5時間/日）＜土日はお休み＞

【時間】9:30～12:30（中間休憩10分含）

13:30～18:00（中間休憩10分×2回含）

【場所】浜松市中区砂山町348-12 オレンジビル3F Bルーム

【講師】八巻 直一/国立大学法人静岡大学名誉教授（工学博士）

【定員】20名

【受講料】¥162,000（税抜）/名

| 科目名            | 科目内容  | 計画   |    |
|----------------|---|------|----|
|                |   | 時間   | コマ |
| 産業の歴史と<br>基礎技術 | <p>産業の勃興と歴史をなぞり、産業が成立して以来、特に日本における産業の歴史と現状を学びます。講座を通じて、この世界に乗り出す新人技術者が、何を学び、どのような仕事が行っているか認識してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工業の誕生と現代のモノづくり</li> <li>・ 生産管理とその歴史</li> <li>・ 工場生産と生産計画</li> <li>・ プロジェクト型の仕事とプロジェクト計画</li> <li>・ 日程計画とPERT</li> <li>・ PMBOK</li> <li>・ 技術者に必要な資質</li> </ul> | 67.5 | 45 |
| 合計             |   | 67.5 | 45 |

【特徴】本講座は産業の生い立ちと現代産業を学ぶと共に、グループワークによる課題演習を行い、日々の成果をレポート作成し、組織行動と報告スキルの向上を図ります。

## 情報システム基礎Ⅱ講座 ご案内

【実施】株式会社 ITSC

【目的】本講座は、ソフトウェア構築の全体像と情報システムの管理概要知識を学びます。

【構成】本講座は下表に示す1科目からなり、合計8日間（60.0時間）で実施します。

【期間】4月20日～4月30日（7.5時間/日）＜土日・祝日はお休み＞

【時間】9:30～12:30（中間休憩10分含）

13:30～18:00（中間休憩10分×2回含）

【場所】浜松市中区砂山町348-12 オレンジビル3F Bルーム

【講師】八巻 直一/国立大学法人静岡大学名誉教授（工学博士）

【定員】20名

【受講料】¥144,000（税抜）/名

| 科目名         | 科目内容   | 計画   |    |
|-------------|--|------|----|
|             |  | 時間   | コマ |
| ソフトウェア構築の基礎 | <p>コンピュータの歴史や情報基盤の変遷をつうじてソフトウェア構築の全体像をつかむとともに、オートマトンや開発技法などの技術的基礎知識とISMSなどマネジメントの基礎知識を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの歴史と現在</li> <li>・情報基盤の変遷</li> <li>・オートマトンⅠ</li> <li>・オートマトンⅡ</li> <li>・ソフトウェアの開発技法</li> <li>・ISMS</li> <li>・新しい流れ</li> </ul> | 60.0 | 40 |
| 合計          |  | 60.0 | 40 |

【特徴】本講座は情報産業の背景と情報システムのマネジメントの考え方を学ぶと共に、グループワークによる課題演習を行い、日々の成果をレポート作成し、組織行動と報告スキルの向上を図ります。

## データベース基礎講座 ご案内

【実施】株式会社 ITSC

【目的】本講座は「データベースの概念と論理設計」の基礎を学び、実際に実装し体験学習します。

【構成】本講座は下表に示す1科目からなり、合計3日間（22.5時間）で実施します。

【期間】5月11日～13日（7.5時間/日）

【時間】9:30～12:30（中間休憩10分含）

13:30～18:00（中間休憩10分×2回含）

【場所】浜松市中区砂山町348-12 オレンジビル3F Bルーム

【講師】清水 朝日／(株)DUE

【定員】20名

【受講料】¥54,000（税抜）/名

| 科目名      | 科目内容   | 計画   |    |
|----------|--|------|----|
|          |  | 時間   | コマ |
| データベース構築 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース概念<br/>データベース概念を、データとは何ものかを捉え、身の回りのデータの利便性やデータベースの導入効果及びデータベース事情から学びます。</li> <li>・データベース論理設計<br/>データベースのシステム化に向けて、データベースのファイル編成を学び、データベースの論理設計をデータベース間の関係と操作から学びます。</li> <li>・DBMS実装<br/>データベース言語による実装をデータモデルを意識し、一連のデータベース構築プロセスを具体的な実習から学びます。</li> </ul> | 22.5 | 15 |
| 合計       |  | 22.5 | 15 |

【特徴】本講座のデータベースでは実際の設計と実装の基本を学びます。また、データベース言語に対する理解が重要となりますので、日々のデータベース練習問題から言語の理解度を確認し、実装スキルの向上を図ります。

## プログラミング講座 ご案内

【実施】 株式会社 ITSC

【目的】 本講座はC#言語を使いソフトウェア開発におけるプログラミングの基礎を学びます。

【構成】 本講座は下表に示す2科目からなり、合計6日間（45.0時間）で実施します。

【期間】 5月14日、5月18日～20日、5月25日・26日（7.5時間/日）＜土日はお休み＞

【時間】 9:30～12:30（中間休憩10分含）

13:30～18:00（中間休憩10分×2回含）

【場所】 浜松市中区砂山町348-12 オレンジビル3F Bルーム

【講師】 大津 崇／(株)InterFelix、荘司 雅通／ロジックススクエア(株)

【定員】 20名

【受講料】 ￥108,000（税抜）/名

| 科目名            | 科目内容  | 計画   |    |
|----------------|---|------|----|
|                |   | 時間   | コマ |
| ソフトウェア<br>設計基礎 | ソフトウェア開発プロセスの基本を学びます。<br>・ 問題分析と調査及び検討の進め方<br>・ プログラムの目的と仕様の決め方<br>・ 入出力の考え方<br>・ プログラムの枠組みの考え方<br>・ テスト方法の考え方  | 7.5  | 5  |
| C#プログラミング      | C#プログラミングの基礎を学び、練習課題を実装します。<br>・ C#プログラミング技術の概論<br>・ C#開発環境導入（開発環境と開発手順）<br>・ C#言語の基礎<br>・ クラス（オブジェクト指向、パッケージとスコープ）<br>・ クラス拡張、継承<br>・ 再帰処理、例外処理<br>・ クラス図、C#API等 | 37.5 | 25 |
| 合計             |   | 45.0 | 30 |

【特徴】 本講座はソフトウェア開発における「実際の設計」と「プログラム実装の基本」を学びます。この学習ではプログラム言語に対する理解が重要となりますので、日々のプログラム練習問題から言語の理解度を確認し、実装スキルの向上を図ります。

## 情報システム開発講座 ご案内

【実施】株式会社 ITSC

【目的】本講座は、具体的なシステムを取り上げ、情報システム開発の上流工程から実装までの一連の作業の流れを実習体験し学びます。

【構成】本講座は下表に示す2科目からなり、合計8日間（60.0時間）で実施します。

【期間】5月15日、5月21日・22日、5月27日～6月2日（7.5時間/日）＜土日はお休み＞

【時間】9：30～12：30（中間休憩10分含）

13：30～18：00（中間休憩10分×2回含）

【場所】浜松市中区砂山町348-12 オレンジビル3F Bルーム

【講師】大津 崇／(株)InterFelix

【定員】20名

【受講料】¥144,000（税抜）/名

| 科目名      | 科目内容   | 計画   |    |
|----------|--|------|----|
|          |  | 時間   | コマ |
| システム開発実習 | <p>数人のチームを作り、チーム内における作業分担や推進計画などを組み立て、同一課題を設計から実装・テスト・納品までをスパイラルモデルによるシステム開発を体験します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発要件説明と開発計画</li> <li>・要件定義と基本機能設計</li> <li>・基本機能実装とテスト</li> <li>・拡張機能設計</li> <li>・拡張機能実装のテスト及びアルゴリズム強化</li> <li>・テストとドキュメントupdate</li> <li>・納品</li> </ul>            | 49.5 | 33 |
| システム評価   | <p>開発したシステムの評価とレビュー及び、マネジメント報告を実習いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価とレビュー<br/>システム開発実習作業途中のチーム進捗状況を発表します。これにより各チームの進捗具合を互いに確認し合い、自チームの推進レベルを再確認します。</li> <li>・最終評価とレビュー及び、マネジメント報告<br/>開発した成果物をチーム対抗比較し品評します。この開発実習成果として、設計と実装及びプロジェクトマネジメントは上手く学習成果が活かされたか振替を行い学びます。</li> </ul> | 10.5 | 7  |
| 合計       |  | 60.0 | 40 |

【特徴】本講座はソフトウェア開発における一連の開発作業を体験し学習すると共に、チームワークと進捗管理及び品質管理などプロジェクトマネジメントも体験します。これによって業務遂行時における開発推進スキルと業務管理スキルの向上を図ります。